

あいさつとルールを守る児童生徒の育成

ねがい

〈目的〉

自分の思いを素直に表現したり、他者にきちんと伝えたりすることのできる児童生徒、きまりを守り、人の嫌がることをしない児童生徒を育てるために、あいさつ強調週間やヘルメット、帽子の着用の徹底運動を小・中で連携して取り組むことにしました。

〈内容〉

つながり

● あいさつ強調週間の設定

児童生徒と教職員が一体となつて行う「あいさつ強調週間」を校内・校外（中学校区）で毎月第2週に同時に設定し、地域と連携したあいさつ運動を行っています。

小学校では児童会を中心に朝の「あいさつ運動」を展開し、自分から進んであいさつする習慣づくりに取り組んでいます。

中学校では、上記の活動以外に、キャプテン会の提案で、部活動対抗「あいさつコンテスト」を毎学期実施し、自分から進んであいさつする習慣づくりに取り組んでいます。



【朝のあいさつ運動の様子】

● ヘルメットの着用を徹底する取り組み

中学校での自転車通学を見通した指導として、小学校では帽子の着用、中学校ではヘルメットの着用を徹底し、ルールを守ろうとする子どもの育成をめざしています。

ヘルメット、帽子の着用以外にも、ベル着の徹底や服装を整えることなど、学校のルールを守ることに月ごとに焦点を当てて取り組み、規範意識を高めようとしています。



【ヘルメットを着用して登校する様子】

〈成果〉

こうした取り組みをとおして、校内で自然にあいさつを交わせる子どもたちが増えました。また、校外においても、地域の方々にあいさつができるようになり、お褒めの言葉をいただくこともありました。今後は、一層効果的な取り組みとなるよう、児童生徒のモチベーションを高める方法を工夫していきたいと考えています。

ヘルメットや帽子の着用に関しては、登下校時にきちんとかぶることができる児童生徒が増えてきましたが、一部には学校から離れると脱ぐなど、ルールの遵守ができない児童生徒もいます。今後はルールがなぜ必要なのか、という点にも焦点を当て、納得してルールを守ることのできる児童生徒を育てていきたいと思ひます。

高まり